

48ページ

退魔の女

モノクロ

メス堕ち



きりはらゆうこ
私は桐原侑子
退魔師を生業にしている

今回退魔師協会の任務で
この廃ビルの調査に来ている

最近この辺りで異質な
妖気が流れている為
妖魔の溜まり場になっている
という情報だった

退魔師
桐原侑子

今回これが
私の最後の任務・

気配が近い・

数ヶ月前

これを君に
受け取って欲しい

侑子、僕と

結婚して欲しい

誠司さん

でも私は・・・

君の仕事の事は知っている
特別な力を持つも者の使命
世のため人の為に働いている君を
僕は尊敬している

しかし同時に
危険な仕事でもある

僕は怖いんだよ
君を失ってしまう事が
何よりも

僕と一緒に
新たな人生を歩もう

僕からは
これからは
僕の隣りにいてくれないか

引退・・・ですか

ただでさえこの
業界は人手不足
だと言うのに

あなた程の才を持つ
者が業界を離れるとは

残念でなりません

退魔協会理事

申し訳ありません

いえいいのです
あなたの人生ですから

他者がとやかく
言うことではありません

私は彼のプロポーズを受け

退魔の世界から離れ
一人の女として
幸せになるんだ

ここか・・・







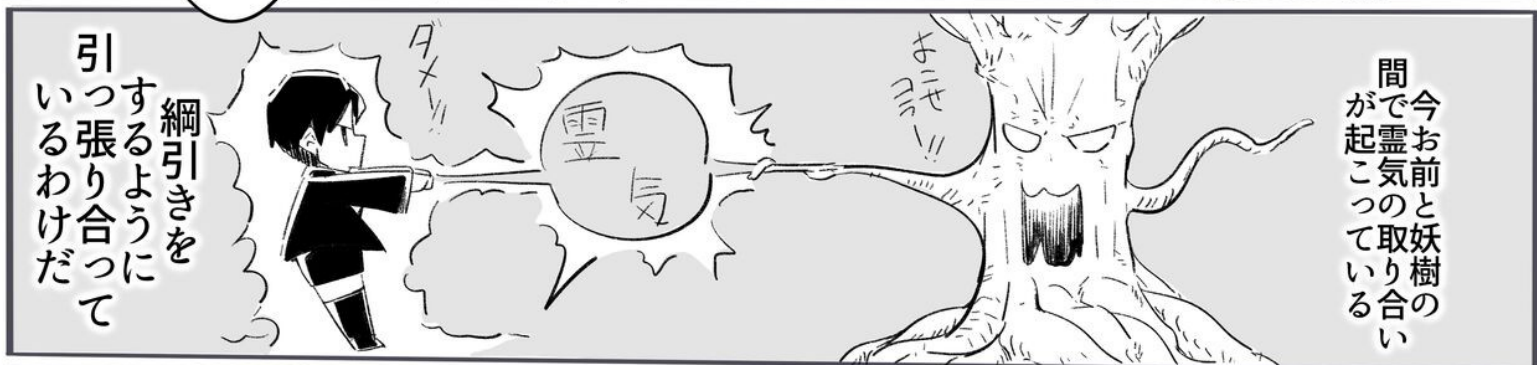


だがお前程の
術師そう簡単には
霊気は吸い取れまい



な、何をする

お前が持つ上質な霊気を
妖樹に取り込ませる



今お前と妖樹の
間で霊気を取り合い
が起こっている

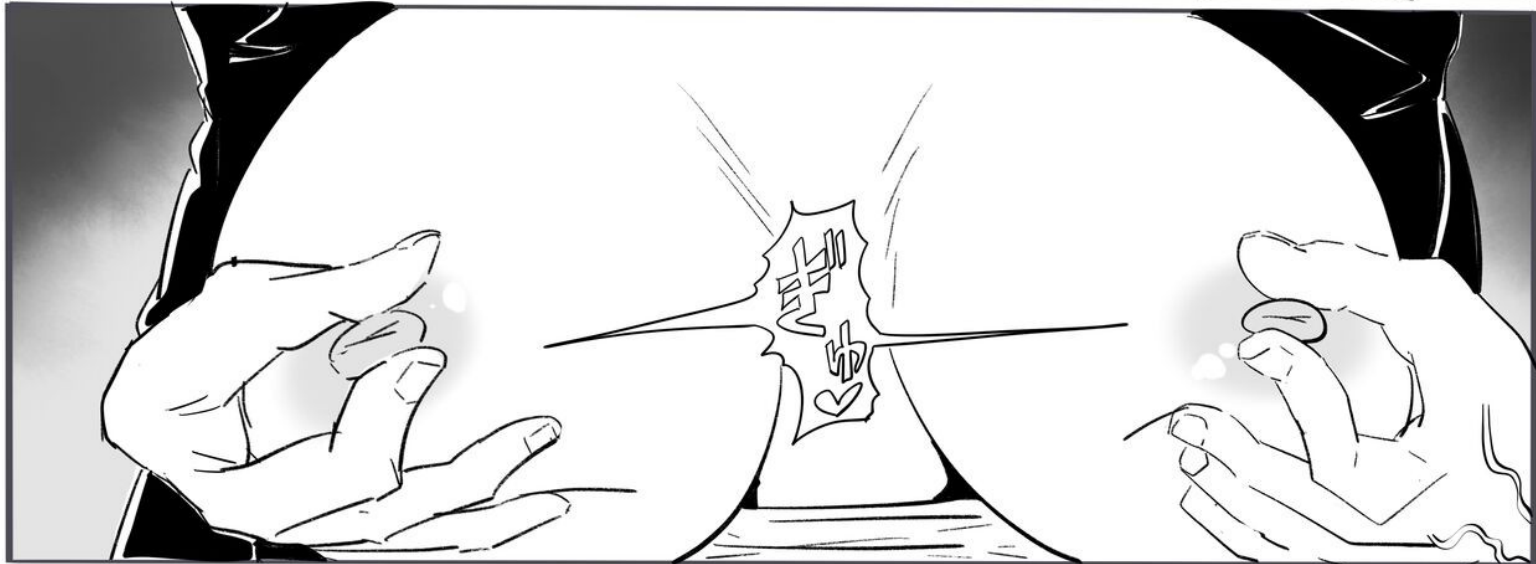
綱引きを
するように
引っ張り合っ
ているわけだ

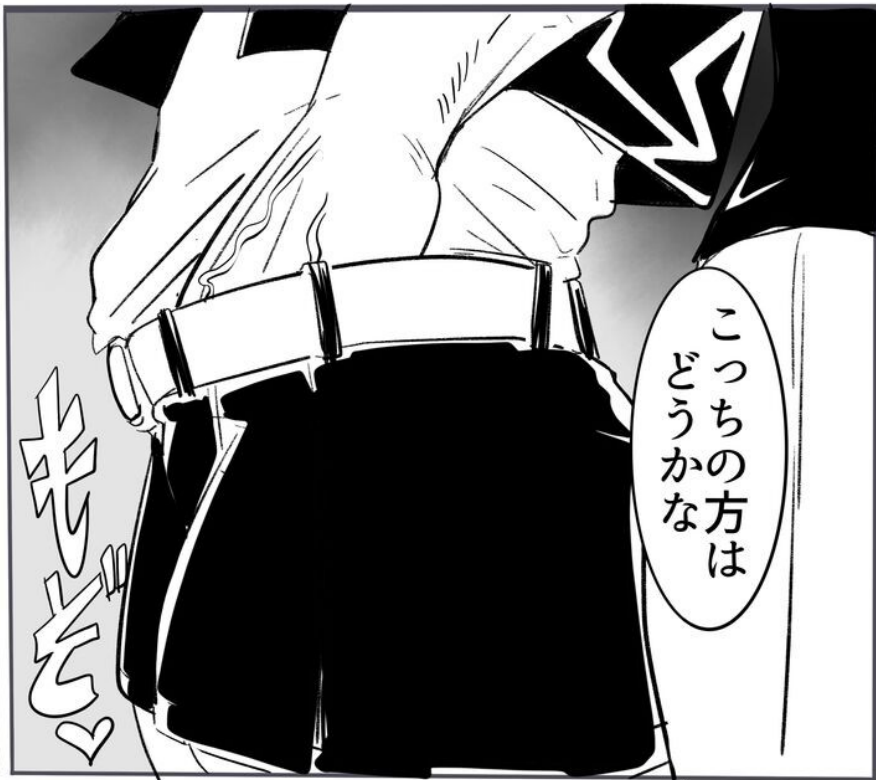


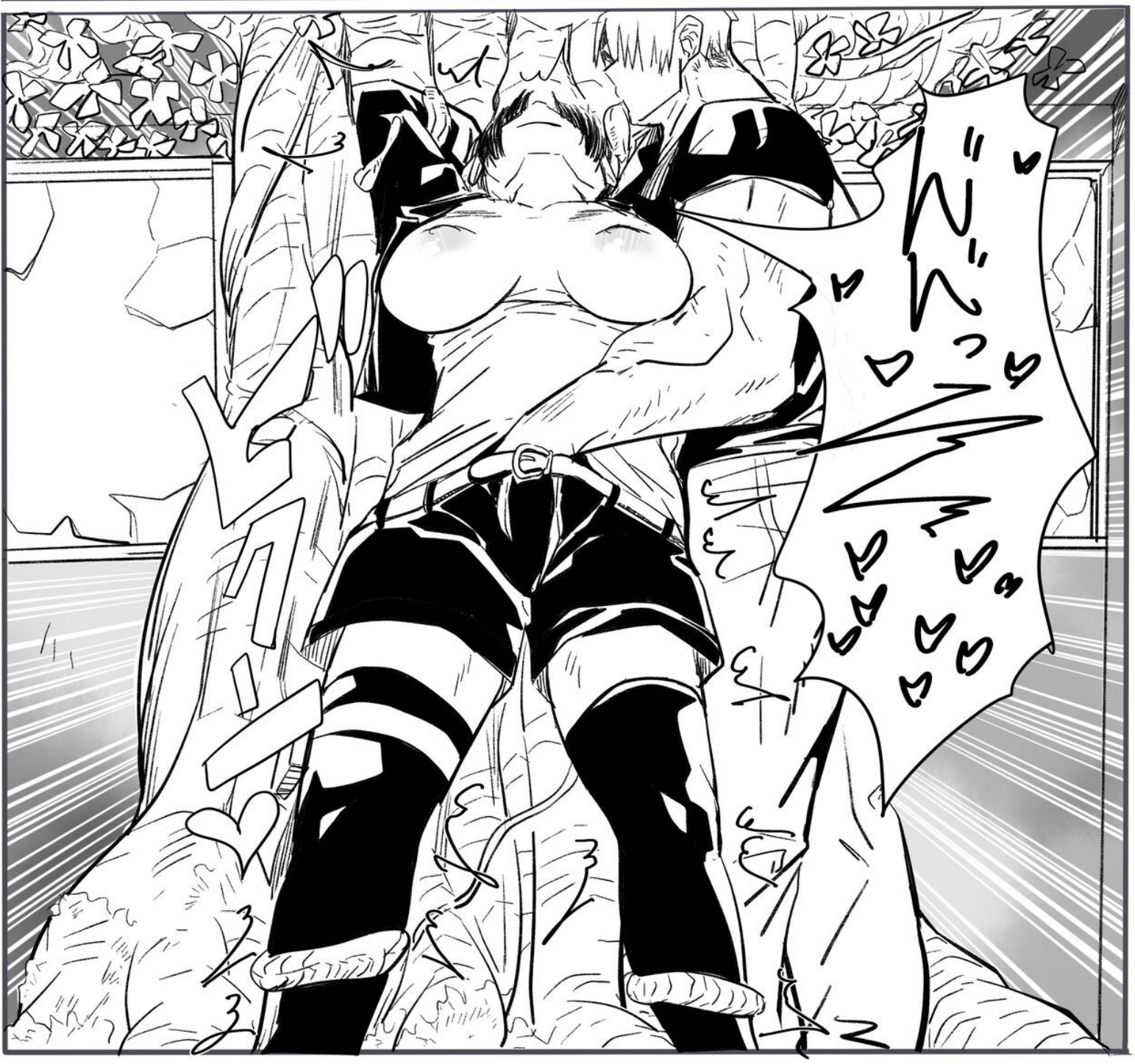
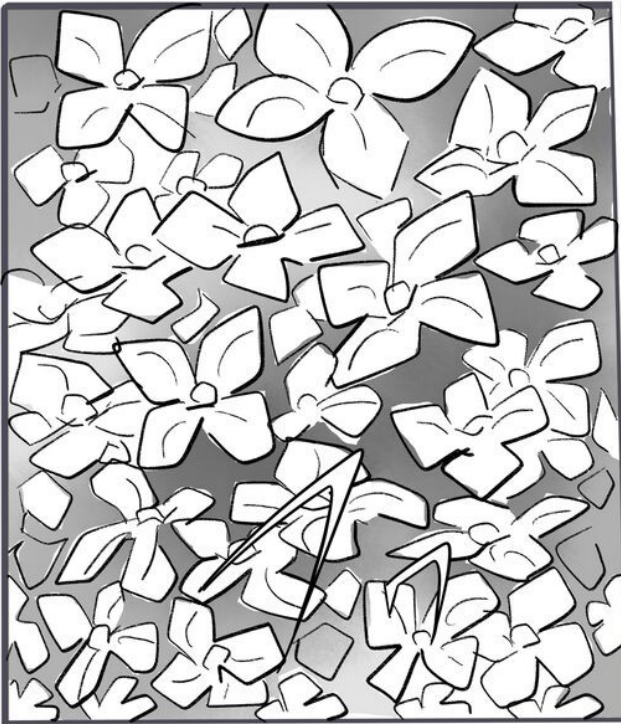
妖樹も霊気を
吸いやすい



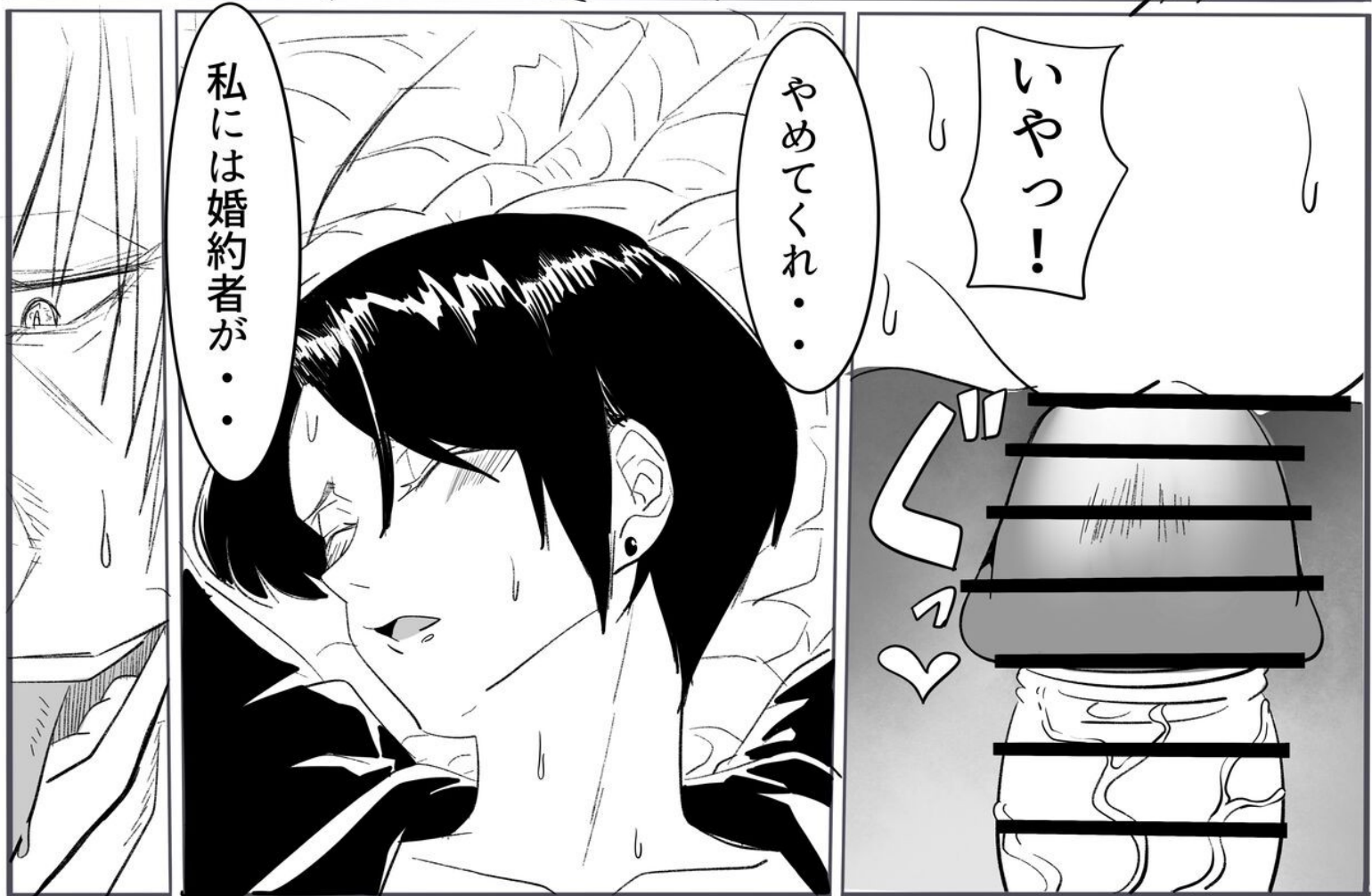
だから俺が貴様の
集中を乱してやれば









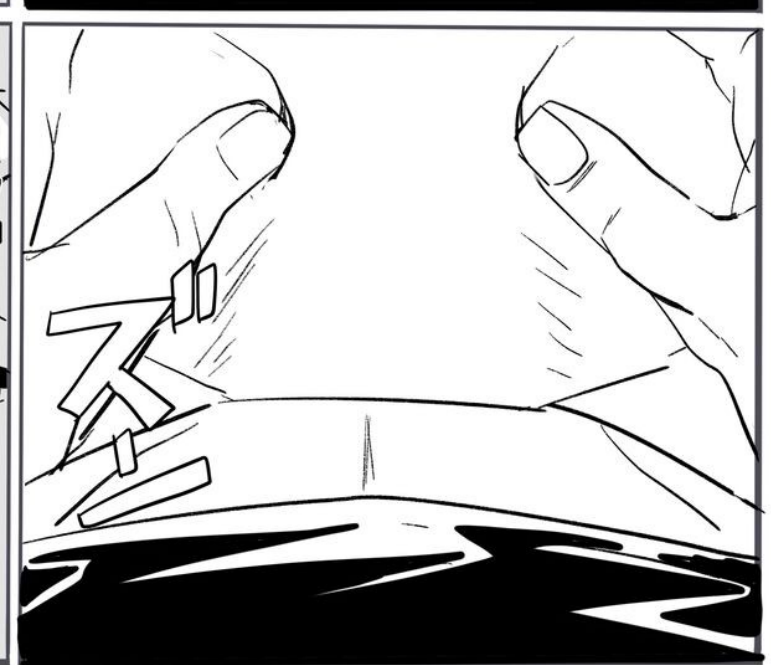
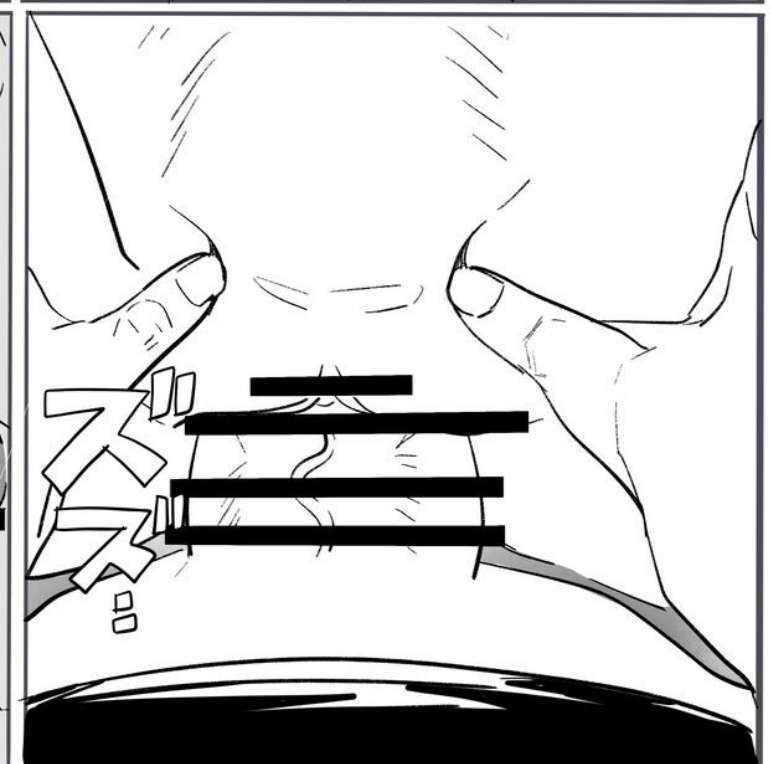
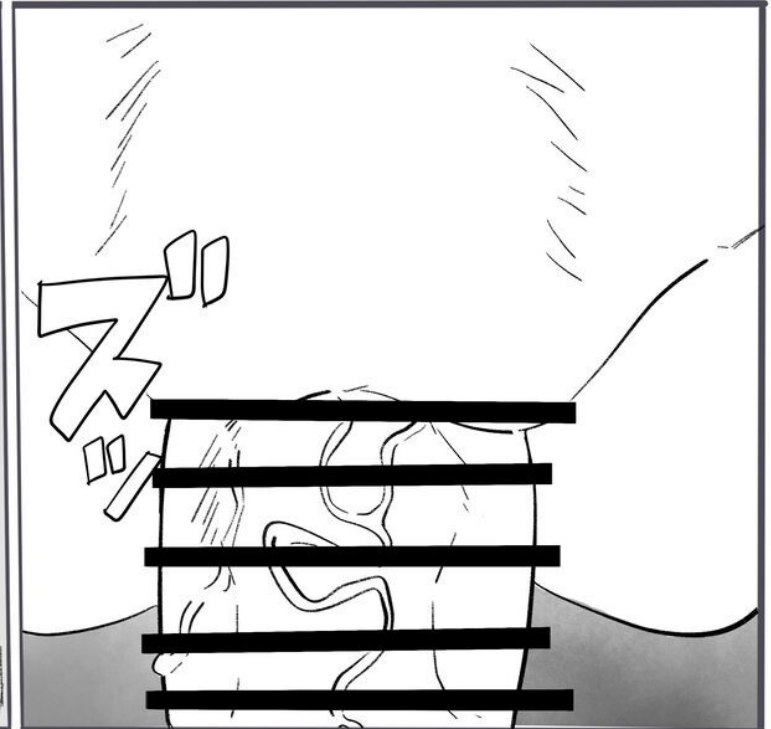






いいぞ
もつとだ!もつと
絞り出せ!

抗わず
受け入れる









ここで式を
挙げるのね

ああ
気に入ってくれたかい

ええとつても
素敵な場所



僕は君のウェディングドレス姿が
待ち遠しくって仕方がないよ

うふふっ

楽しみに待っててね♡

侑子の住む
マンション

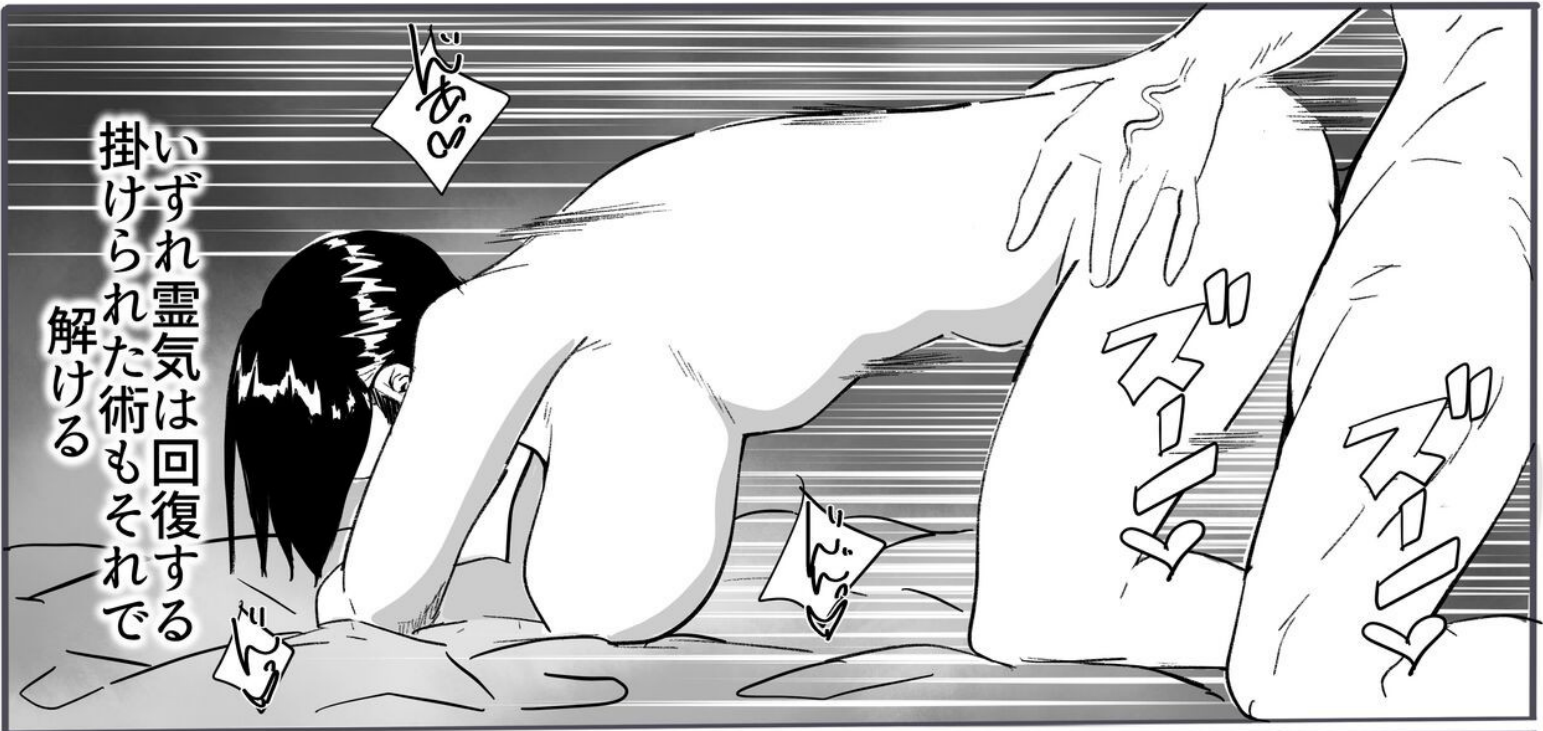
わからんな
お前程の価値のある女が

あんなつまらん
男と一緒にいるのか
理解できるのか

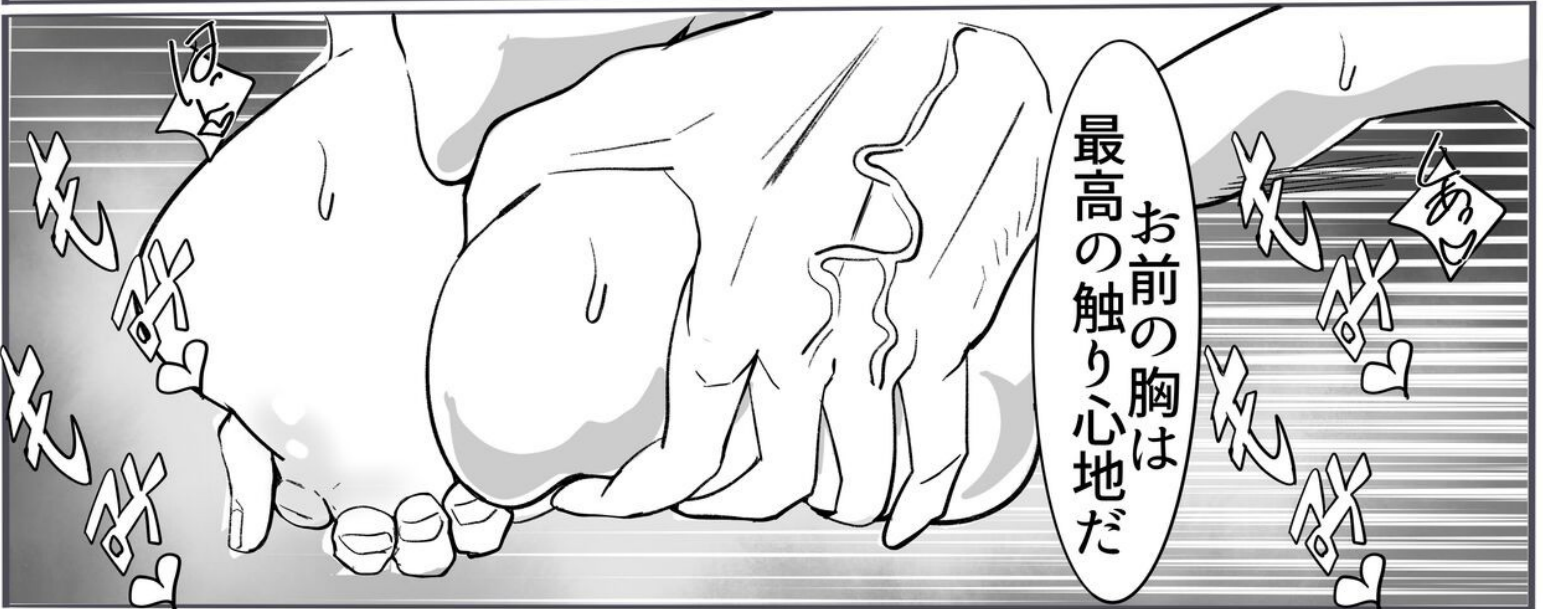
妖魔風情が
彼の悪口を言うな！

あの廃ビル的一件以来
私はこの妖魔に強制隷属の
術をかけられ逆らう事が
出来ずにいた

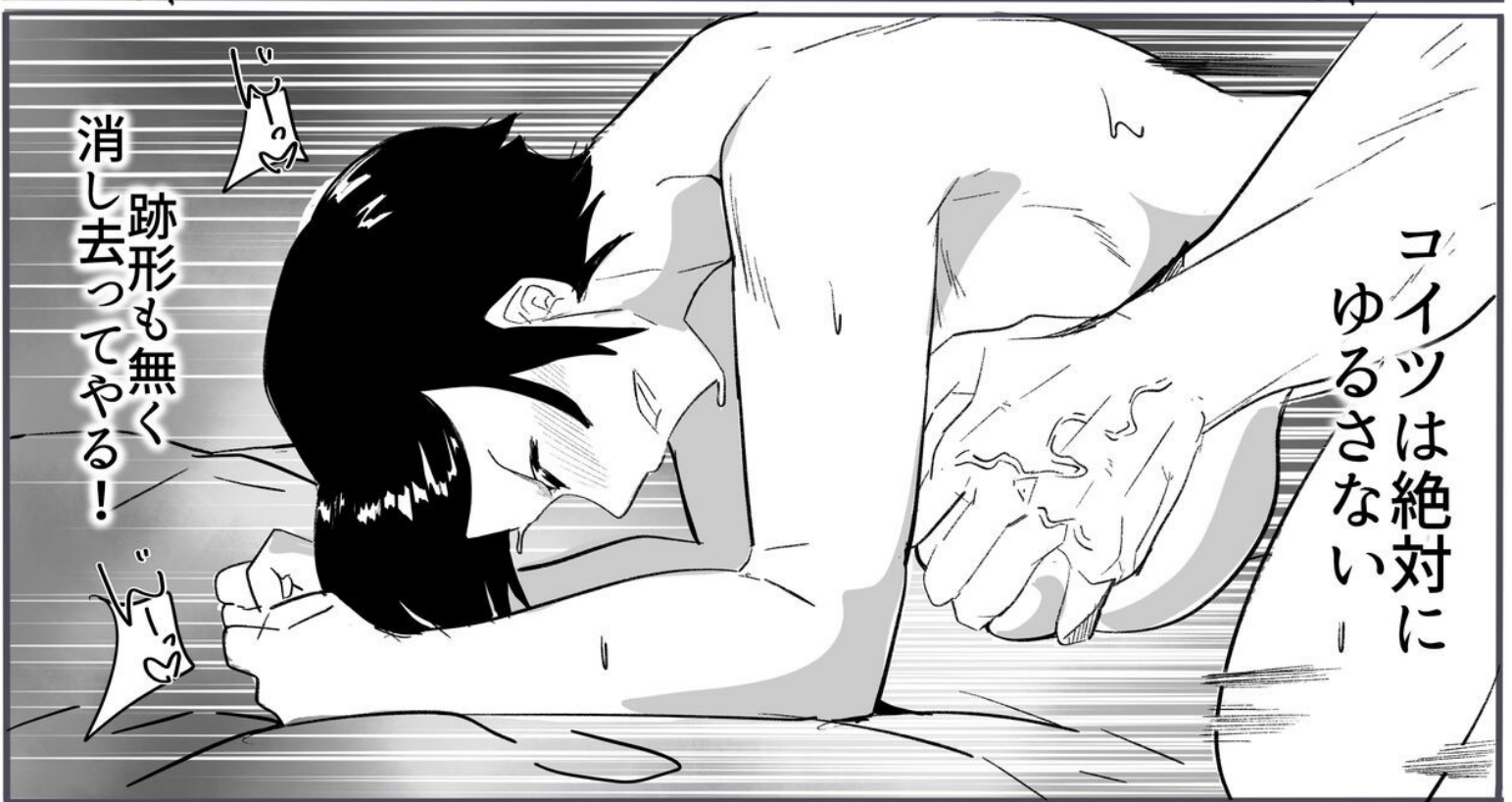
普段ならこんな術には
掛からないのに
靈気を極限まで吸い取られ
絶頂で気を失っていた私は
術に抵抗する事が出来なかつた



いづれ靈氣は回復する
掛けられた術もそれで
解ける

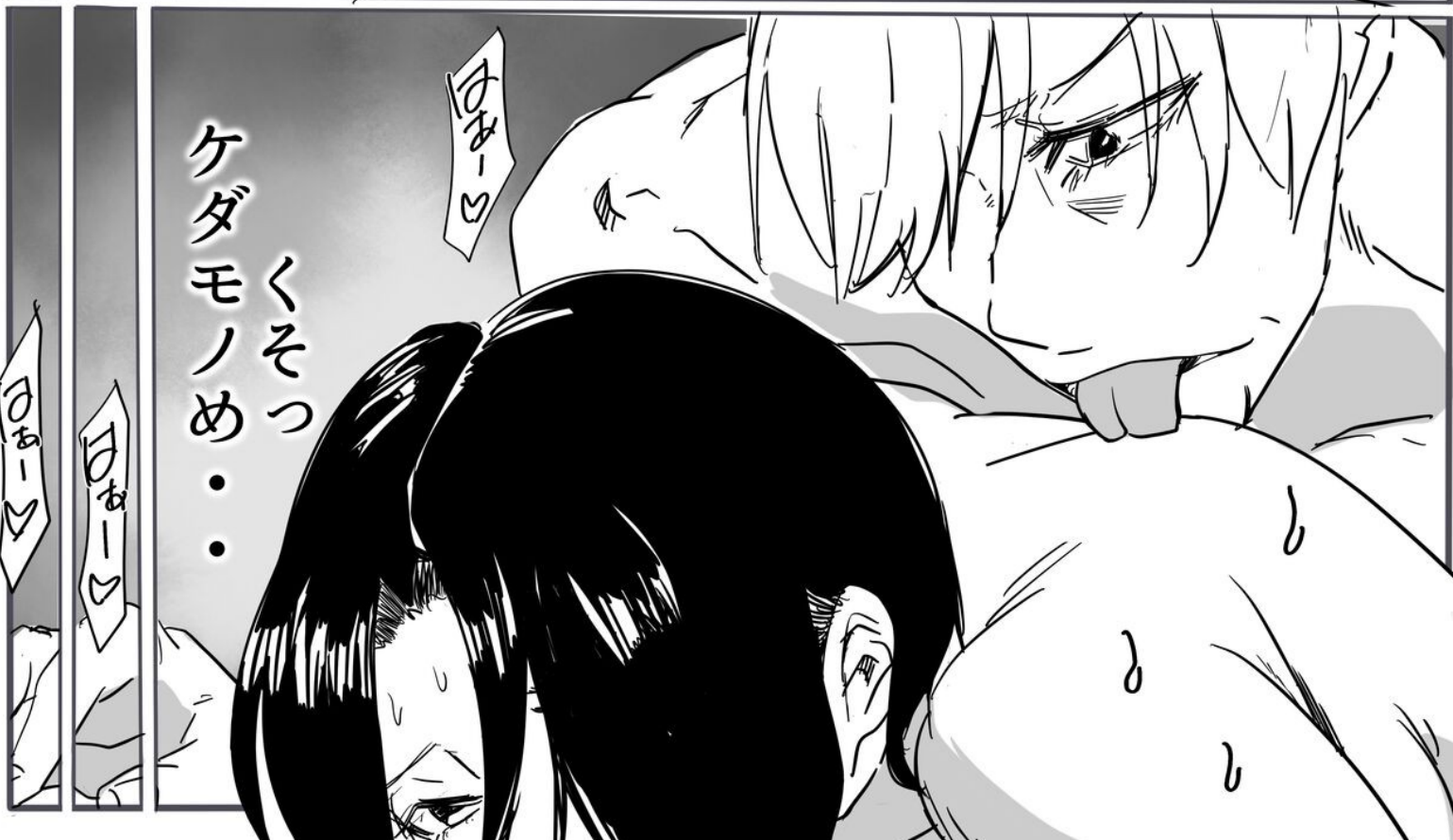


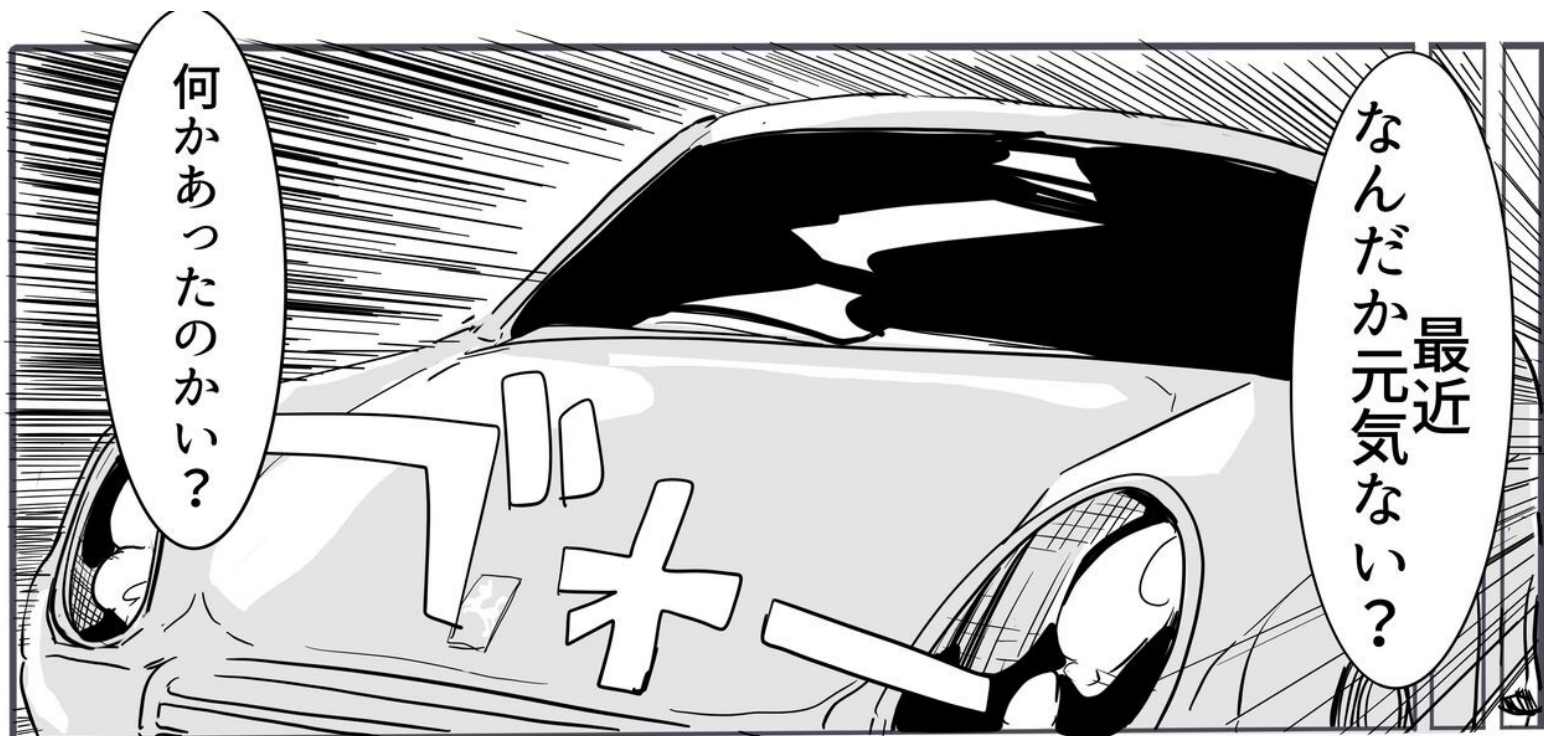
お前の胸は
最高の触り心地だ

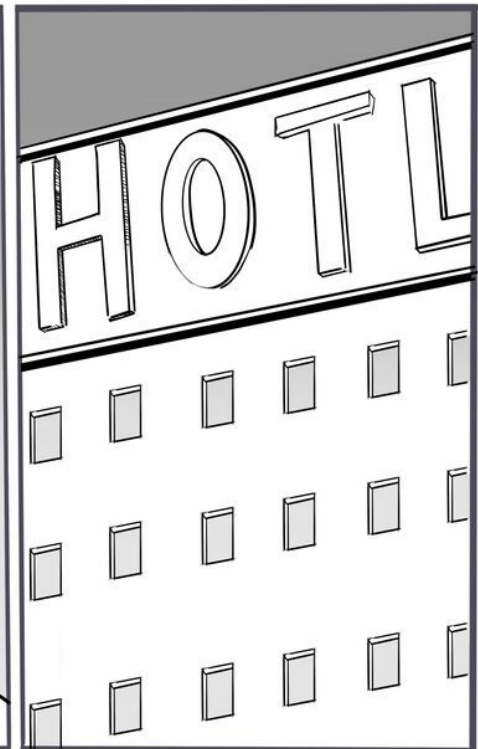


跡形も無く
消し去ってやる!

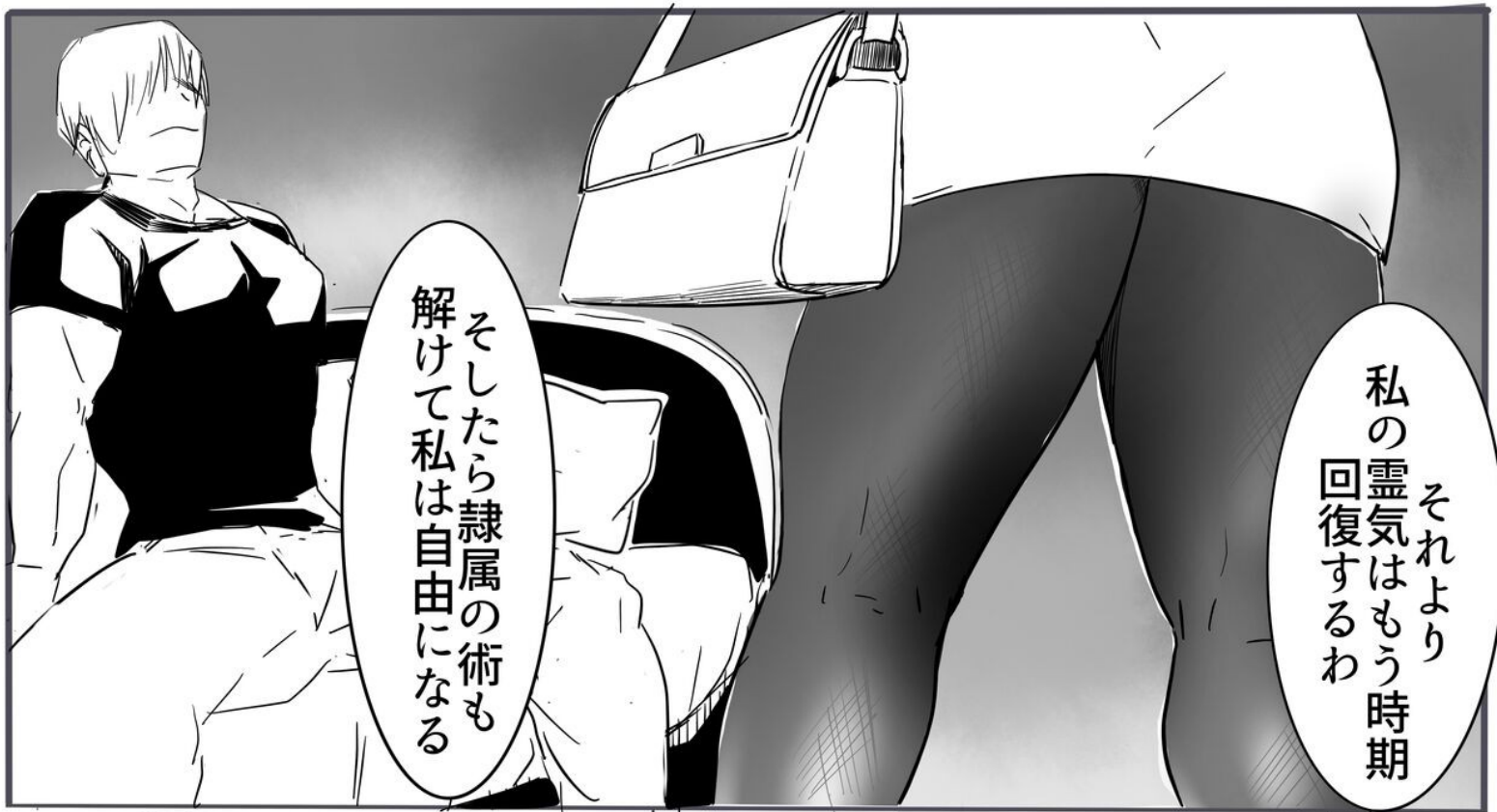
コイツは絶対に
ゆるさない!

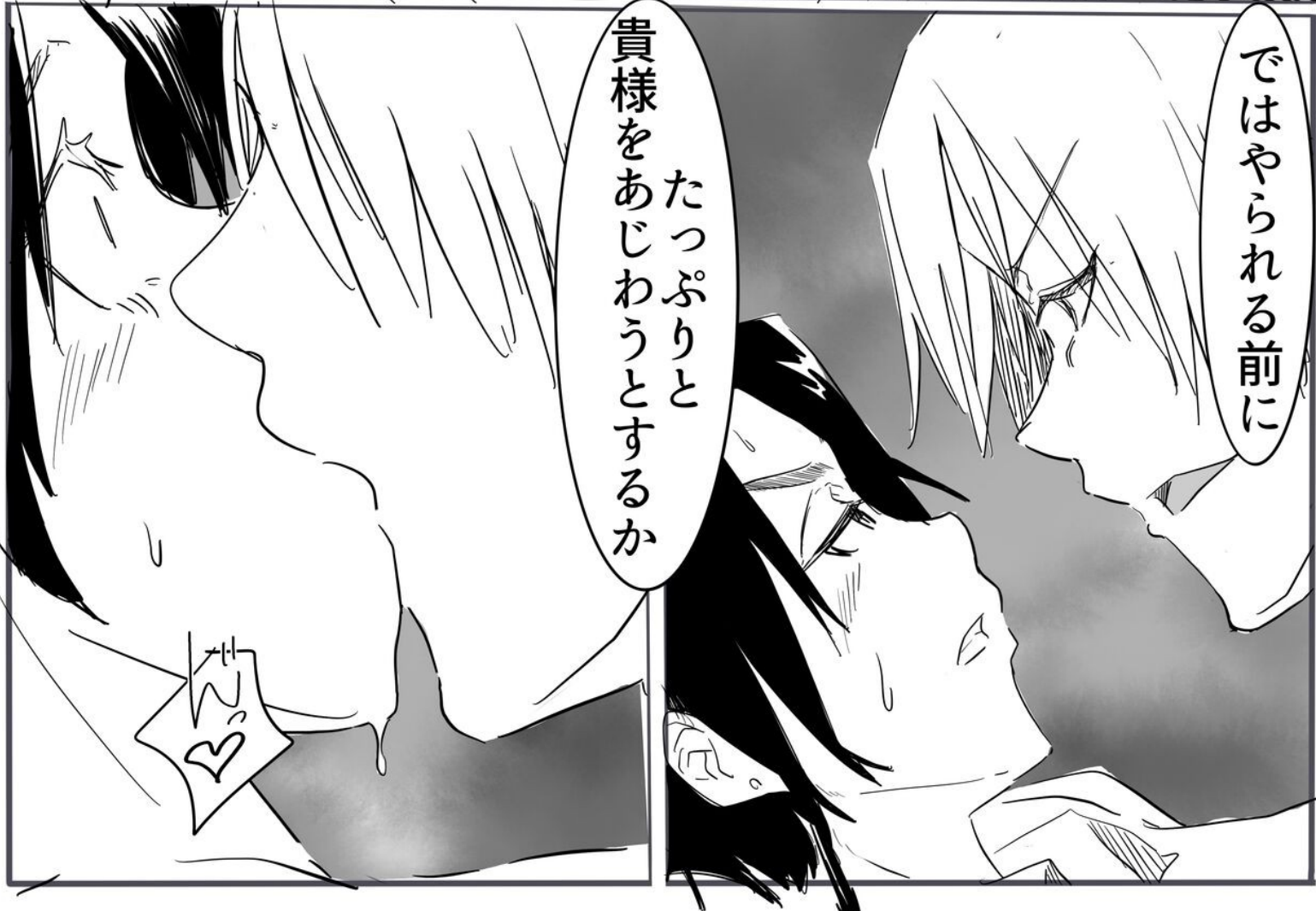


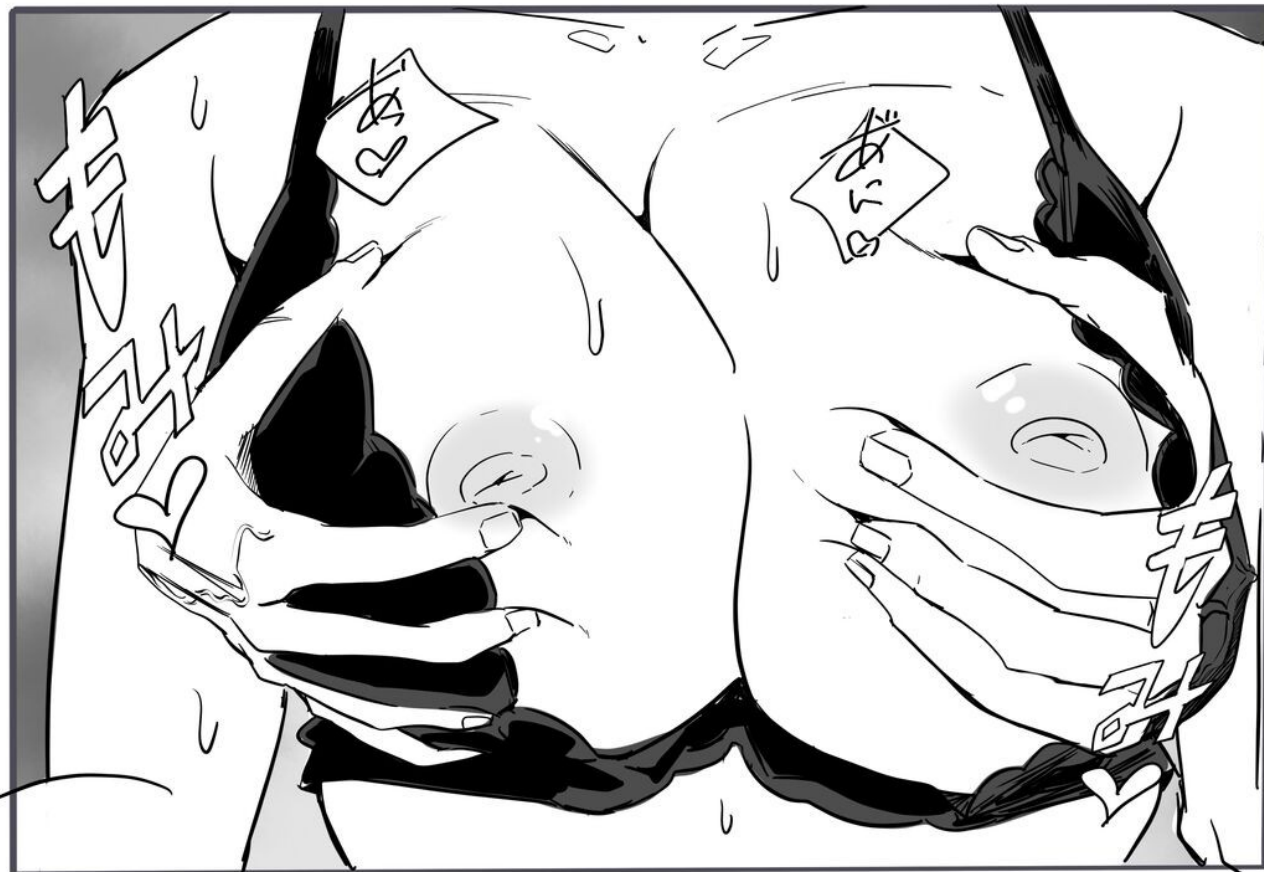












どうせ婚約者には
ファイアンセ
イかせてもらえなかつたんだろう？



これ程の躰を満足させないとは
同じ男としては許せん所業

もはや大罪だ

まあ凡人とお前は
釣り合わんと言う証拠か

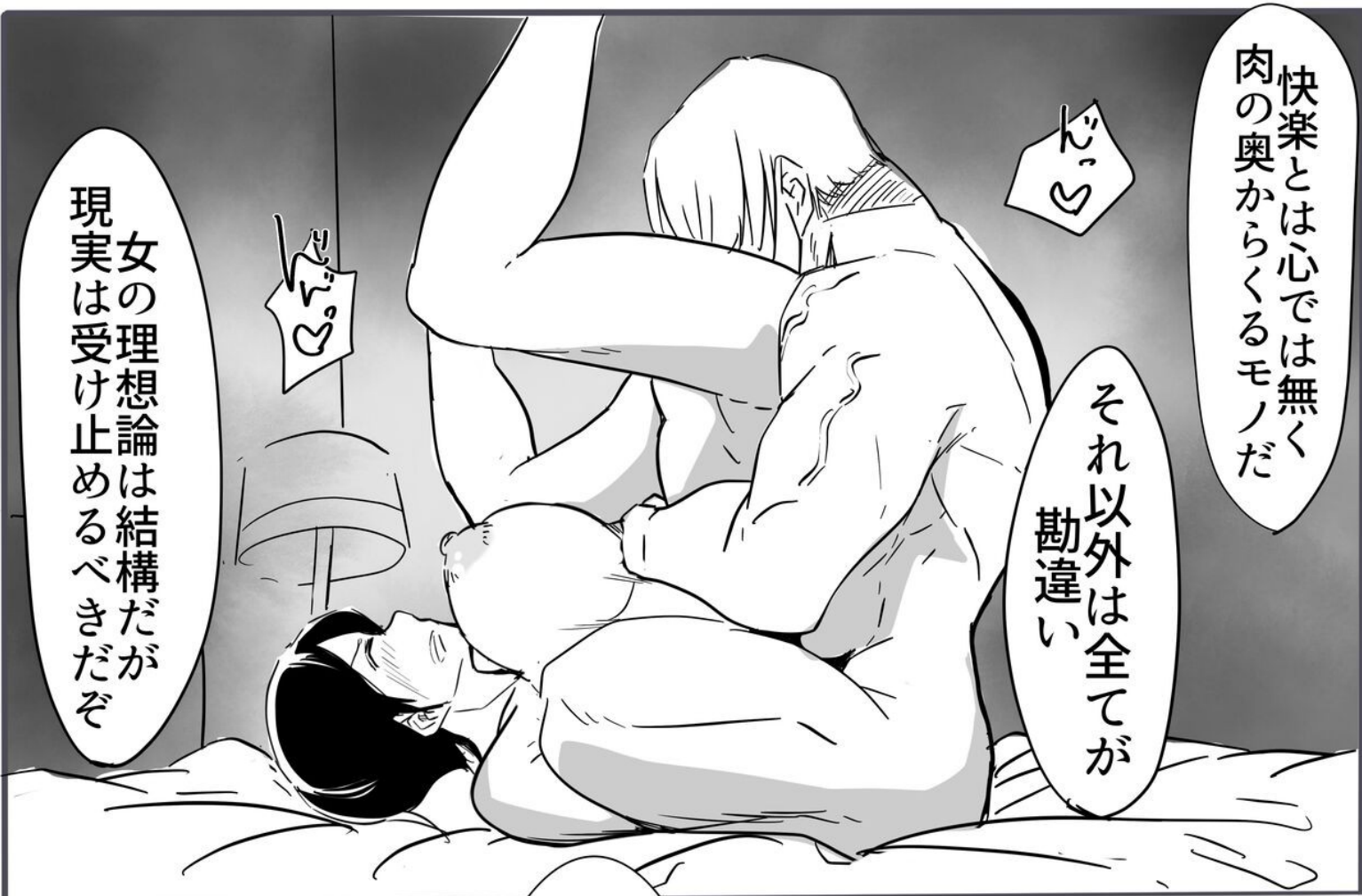
男の人の価値は
そんな事で決まらない



快樂とは心では無く
肉の奥からくるモノだ

それ以外は全てが
勘違い

女の理想論は結構だが
現実を受け止めるべきだぞ



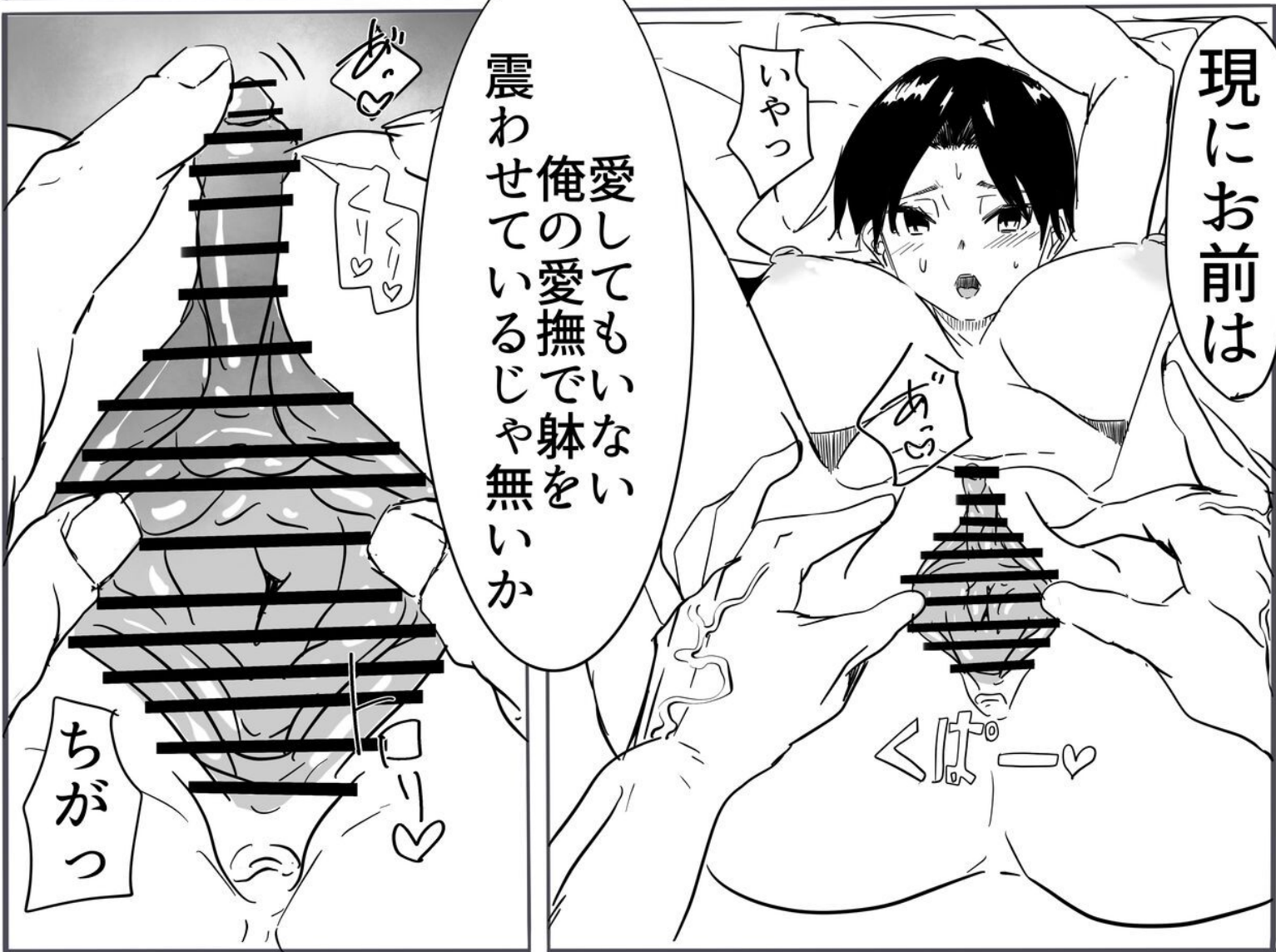
現にお前は

いやっ

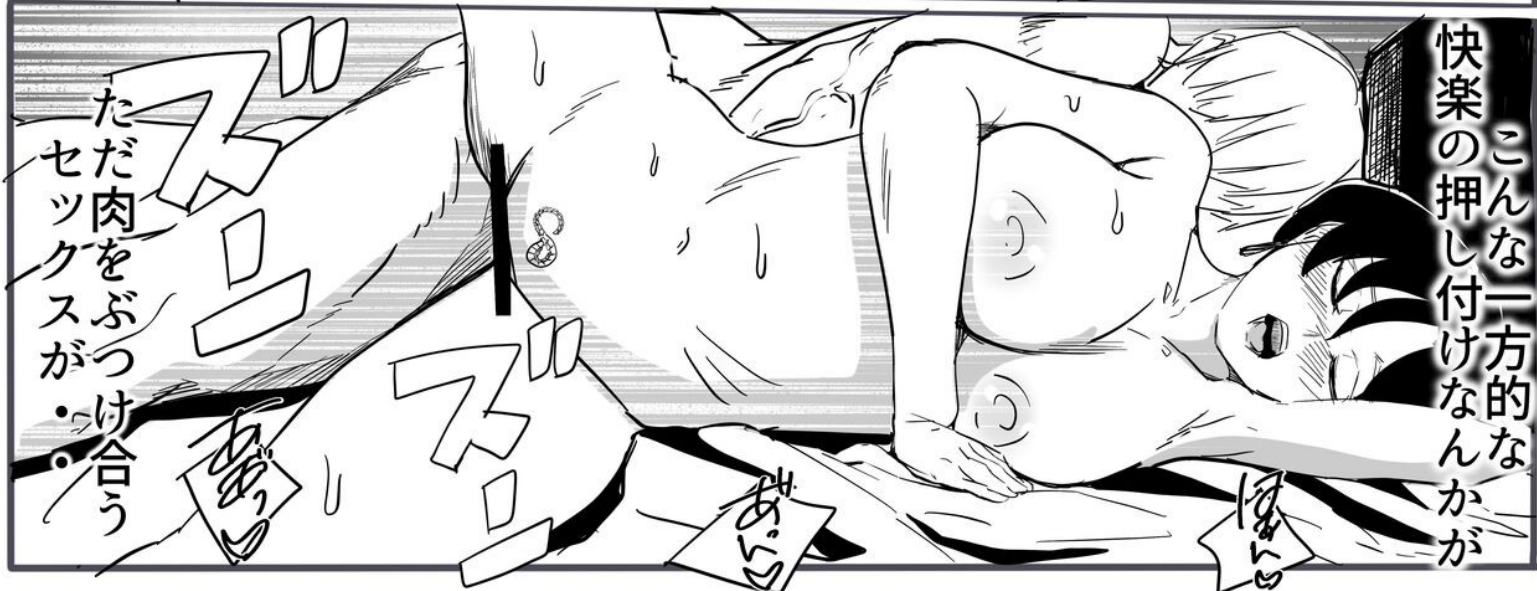
愛してもいない
俺の愛撫で軀を
震わせているじゃ無いか

くばー♡

ちがつ

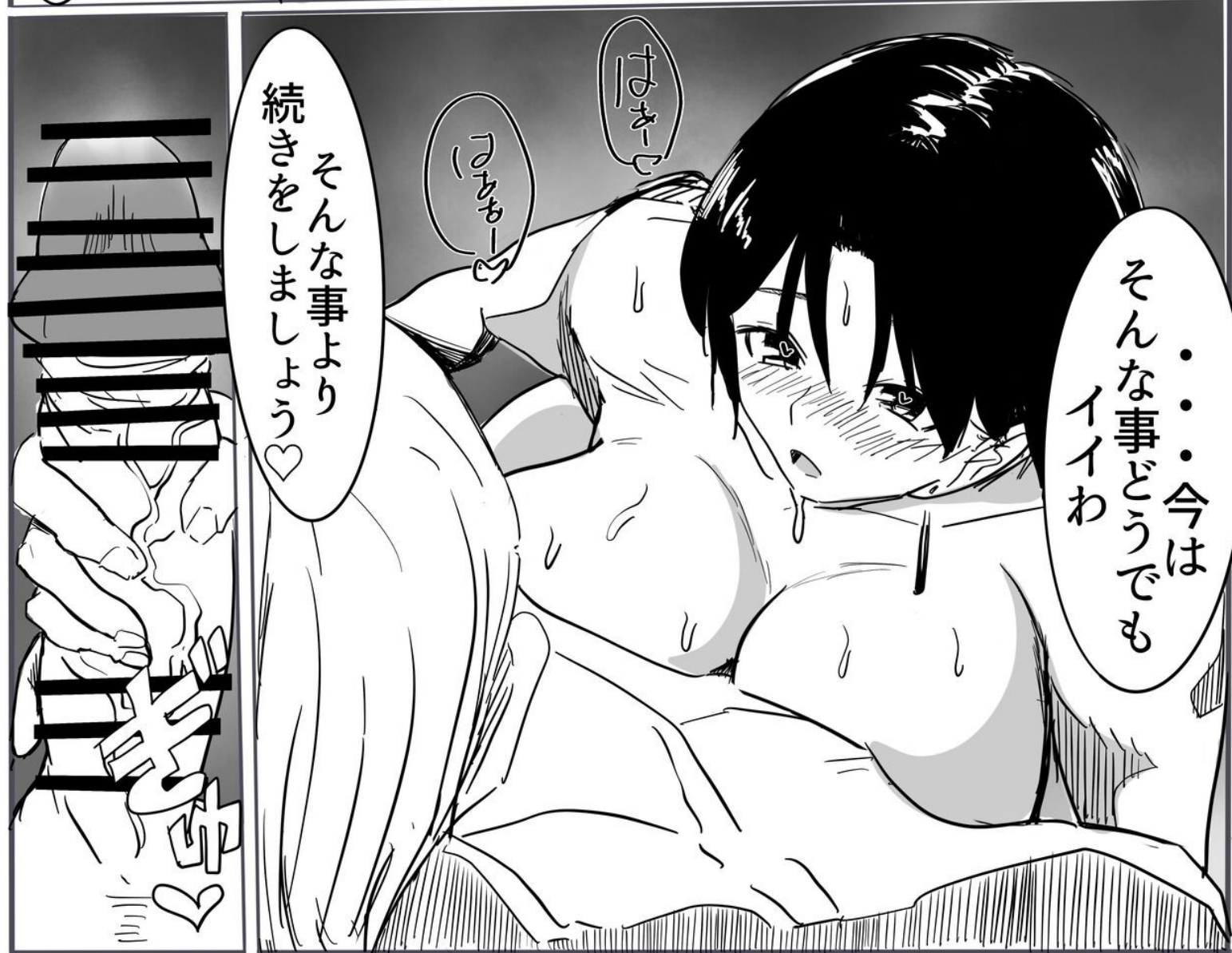












昔の話だ

その村は森に囲まれた
自然豊かな場所だ

ある時異彩を放つ一本の樹
になっていった果実を口にした

それが原因だろう

俺は妖気を
身に宿してしまっ

以来俺は半人半妖
として生きる事となる
あれからどれ程の時間が
過ぎたか・・・

何故また妖樹を
求めるの？

はぁー♡
はぁー♡

完全な妖魔に
なる為さ

人間に戻れず
妖魔になりきることもできない
この肉体

あの実を喰らい
続ければきつと
完全な妖魔に

その為には
お前が必要だ

良質で莫大な
霊気を持つ貴様が

俺に協力しろ
悪いようにはしない

勿論タダでとは
言わん

報酬は払ってやる
躰でなあ

凡夫には満たせない
お前の躰



満たす事が
できる

俺だけが

イクっ!
イカされる♡



渴いている
貴様の肉を









ごめん・・・今
よく聞こえなかった

なんて言ったのか
もう一度・・・



ですから
貴方との婚約の件

なかった事に
して下さい

どう言う事だ！



そう言う話を
しているんじゃない！

式のキャンセル料などは
こちらが負担しますので

学生の恋愛ごっこ
をしているんじゃないんだぞ
一体君は何を考えているんだ！

婚約破棄!?

今日ようやく
会えたかと思えば

この数日間連絡も取れず
僕がどれ程の心配したか

私の要件は以上です

それでは失礼します

本当に

ご迷惑をお掛けしました

ま、待ってください

こんなの納得出来ない
もう一度話し合おうよ!

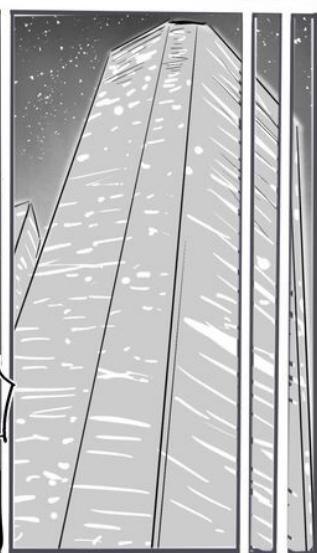
私達もう会わない
方がいいと思う

貴方なら
もつと素敵な人を
捕まえられるわ

そんな
君以上の人なんて

私忙しいので
これで

さよなら誠司さん



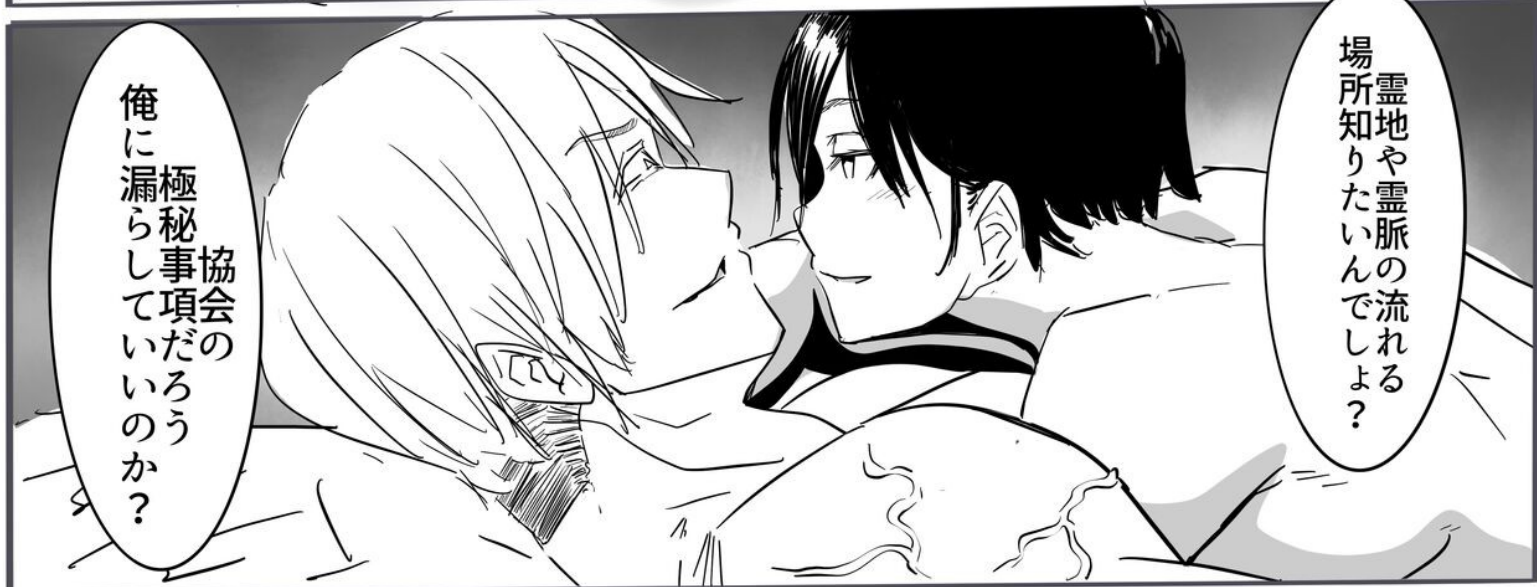


退魔協会に
戻るわ



これからどうする
つもりだ

本当に別れて
くるとはなあ



霊地や霊脈の流れる
場所知りたいんでしょ？

協会の
極秘事項だろう
俺に漏らしていいのか？



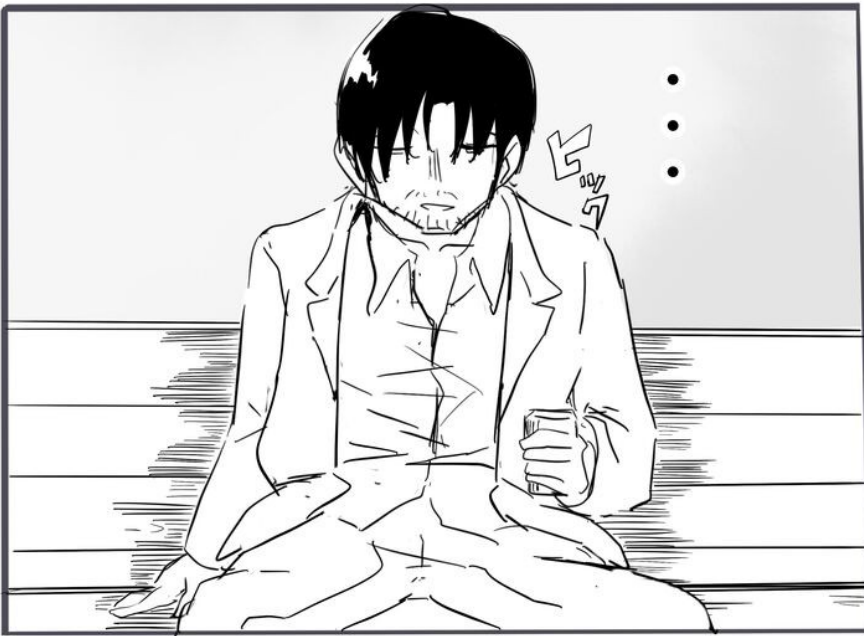
わかるでしょ♡

言わなくっても



何が望みだ？

もちろんタダじゃ無いわよ♡



それから数年



侑子から
別れを告げられた
あの日から

何も上手く
いかなかった

もう何もする
気力が起きない

生きる事さえも



あの豊満な胸は



あれは……



え……



侑子は僕の女神だったのに

一体どうして……



妊娠・・・



しているのか？

・・・ええ

そうよ



は、ははっ・・・
一体どこのどいつだ



僕愛するの侑子に・・・

僕の女神に
勝手な真似をしたのは



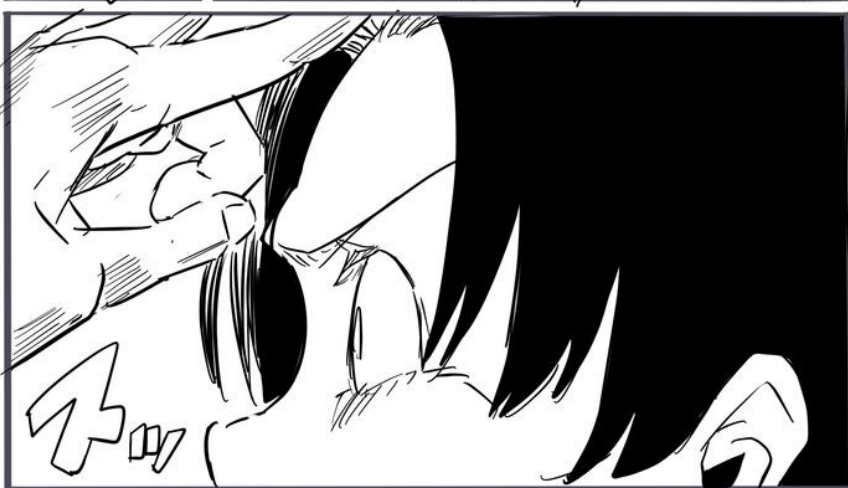
!?

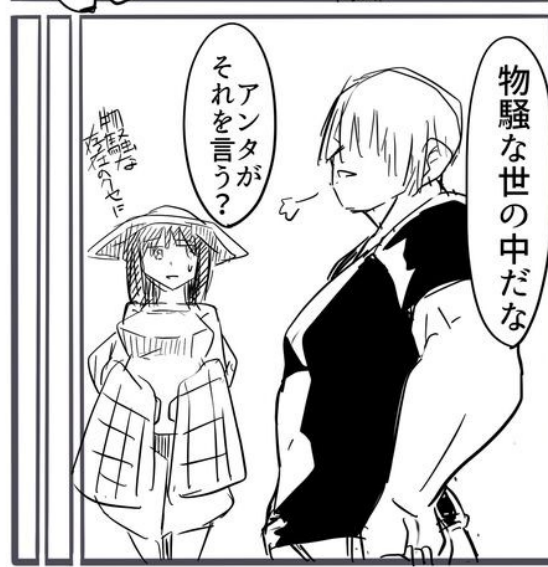
せ、誠司さん・・・

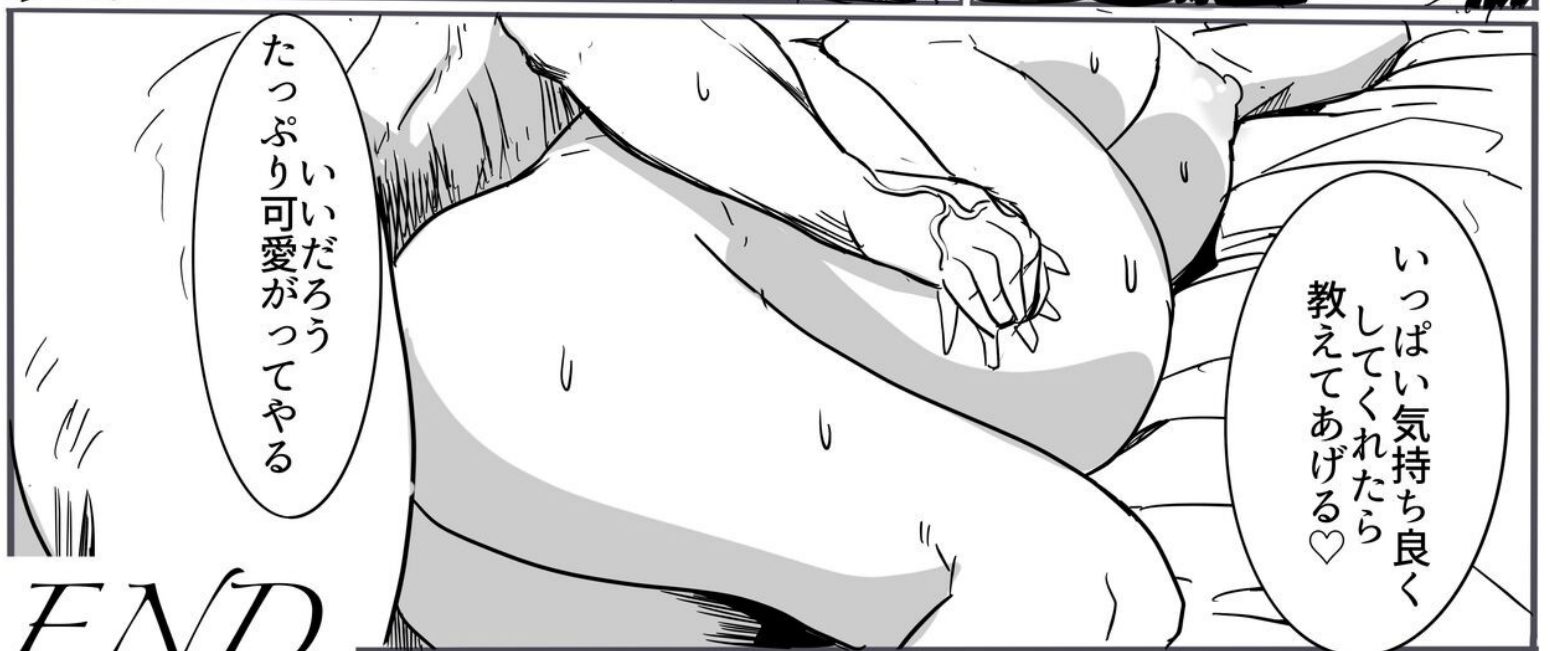
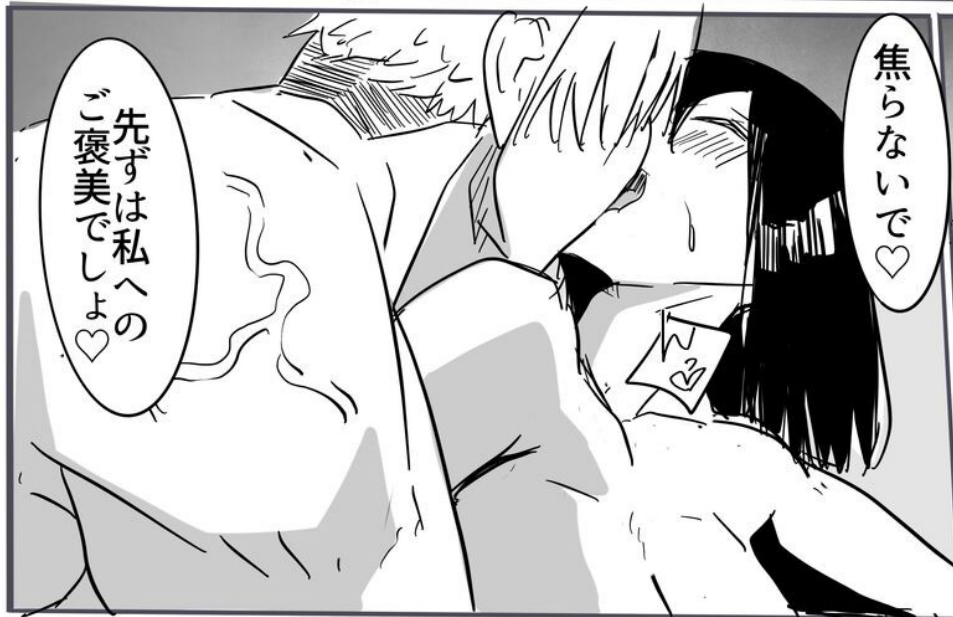
やめて・・・



僕の侑子を
汚しやがって







END

